

種子島の玄関口である西之表港は、古くは赤尾木港と呼ばれた時代から国内外に開かれた拠点とされてきました。後背地には赤尾木のまちなみが残る商店街が形成され、種子島の商工業の中心として機能してきました。

西之表市では、平成 30 年度からスタートした第 6 次長期振興計画において、市の将来像を「人・自然・文化一島の宝が育つまち」とし、本市の重点課題である「人口減少・年齢構造の不均衡・高齢化の進展」「地域力の衰退」「担い手不足」の解決を図ることとしています。

その中で、「港町再生」は、「歴史と国際色豊かな港町の再生を図り、中心市街地の活性化」を図る商工業振興の重要なテーマの一つとなっています。

今回、港町再生を考えるにあたり、

- ①現在西之表市に住む人たちにとって港町の可能性を最大限に活かすこと
- ②地域外の方々にとって魅力を感じる港町をつくること

の 2 つの方向性から、官民連携によるまちづくりを進めていくため、市民参加型の意見交換の場を設置し、方針についての議論を重ねました。

この計画は、港町再生にあたり、行政が取り組む内容と市民や民間が取り組んでいく内容を明確にし、それぞれが責任を持って取り組んでいくため、市民有志と西之表市役所職員が対話を重ねた先にまとめた港町の未来像です。

みなとラボや庁内検討会で検討したビジョン等については、各種団体や地域、通り会、鹿児島県（オブザーバー）等によって組織した港町再生推進検討委員会でそれぞれの立場や専門的な知見からご意見をいただきました。

みなとラボとは？

- ①港町の未来を市民目線で描く
- ②未来のための一歩を自ら踏み出す
- ③明るく楽しいまちの実験場

みなとラボ設立の背景

地方だけでなく、国としても人口減少を迎えている状況。それにより「人材不足」「税込減少」「価値観の多様化」などの様々な問題がある。

ビジョン策定にあたり、西之表市民および出身者を中心に 30 名のまちづくり検討チームを結成しました！
(2018 年 10 月より、月 1 回の会合を実施)

3 つの重要な視点

意識の切り替えを！

役所批判

→ 自分たちで描いていく

誰かを批判したり、反対を訴えるだけでは地域は変わっていきません。"自分たちで描いていく"意識を持つことから始めましょう。ここで大切になるのは「対話」。相手の意見に耳を傾け、自分の感じたことや考えを伝えることが必要です。例えば、相手の意見を批判するのではなく、「それはちょっと難しいと思うけどどうかな？」とやわらかく言葉を返してあげるだけで、安心して話せる対話の場が守られます。

視点の切り替えを！

外のだれかを待つ

→ 小さな一歩を踏み出す

地域やまちのことを考え始めると、小さいことも大きいこともいろんな考えやアイデアが生まれていきます。「誰かがやってくれる」ことを待つのではなく、まずは自分で踏み出せる小さな一歩を考えてみましょう。よりよいプロジェクトづくりにつなげるために、有効になる軸は「やりたいこと・できること・求められていること」の 3 つが重なることを意識してみてください。

軸の切り替えを！

〇〇すべき

→ 〇〇したい！

心からわくわくできる、やりたいと情熱を注げることのエネルギーがあればできることは広がっていきます。地域で何かを始めるとき、「〇〇すべきだ」「〇〇しなければならない」ではなく、「〇〇やりたい！」を軸に、地域の皆さんが「やりたいこと」を語りあえる場をつくることも大切です。まだやりたいことがない人は、やりたいことがある人の応援に回ることから始めましょう！

みなとラボでの歩み

Step 1

人生を振り返る

参加者同士が人生を共有し合うことでお互いのことを深く知り合う

Step 2

まちの議論・経緯に触れる

今回開催されるみなとラボの背景と港町の現状に触れる

Step 3

港町を歩いてみる

実際に港町を歩くことで、人ひとりが「理想とする未来」と見えてきた「課題」と「資源」を整理する

Step 4

理想と現実のギャップを確認する

「それに対する現実（課題等）」について考える

Step 5

理想の未来をイラストに描く

少人数グループで港町の理想の未来を創造したイラストを描く

Step 6

大切にしたいキーワードを決める

理想の未来を描く中で見えてきた大切にしたいキーワードを出し合いそれぞれが共感できるものへ投票を行う

Step 7

ビジョンを描く

大切にしたいキーワードをもとに、目指したい理想の未来を言語化する

Step 8

最初の一步を踏み出す

話し合うだけではなくビジョンを実現するための小さな一歩を考え実際に踏み出してみる

ビジョンを実現するための最初の一步

芭蕉布のれんプロジェクト

「写真を撮りたくなるみなとまち」に向けて、まずは商店街の外観を変える可能性を検討。種子島に古くからある素材（バナナの木）を使って「のれん」をつくってみることに！

地域のいろんな人と一緒にワークショップ形式でのれんをつくりました！



歴史カルタプロジェクト

「歴史・文化を再認識するみなとまち」において、西之表市に数ある様々な伝説や文化的な物語を集め、一つの形にまとめるプロジェクトとして、かるたを作ってみることに！

様々な伝説を収集し素敵なイラストと組み合わせってみました！



まちなかカフェプロジェクト

「歩きたくなくなるお散歩みなとまち」に向けて、気軽に歩いて通いたくなるカフェを街中のいろんなところに開設してみました。市長がふらりとお越しいただくことも！！

普段はさりげなく過ごしている場所も人が集えばカフェに！



港町の理想の未来

官民連携によるまちづくりを進めるにあたり、めざしたい理想の姿を言語化したところ、下記4つの方向性が市民によって提示されました。

- "また来たくなる、全世代がわくわくできる" みなとまち
- "歩きたくなるお散歩" みなとまち
- "写真を撮りたくなる" みなとまち
- "歴史・文化を再認識する" みなとまち



港町にかかわる
多様な世代の人がつながり、共に考え、行動する中で、この町にある宝を見つけ、磨き、一緒に育てていける、そんな港町を目指すことで議論がまとまりました。



今後のアクションプラン案

2019年4月～2020年3月

1. 人の集まる場づくり事業

- ①活動の場の整備・運用
…まちかどインフォメーションセンターを様々な活動の拠点として整備・運用する。
 - ➡コワーキング機能
 - ➡パーティ/コミュニティ機能
 - ➡スタジオ機能 ほか
- ②運営チームの組織化
…みなとラボ、継続的運営手法の検討
 - ➡既存の各種団体、市役所等との連携の在り方検討
 - ➡収益事業のテストマーケティングによる「稼ぎ方」検討
- ③情報発信インフラの整備
…みなとラボに関することを中心に、港町の観光関連情報を発信するプラットフォームメディアの整備
 - ➡Blogメディアの設計&ライター養成
 - ➡SNSでの情報発信
 - ➡まちづくり企画合同記者発表

2. 戦略的プロジェクトの実行支援

- ①全世代がわくわくできるみなとまちプロジェクト
…ゲームを活用したまちづくりイベント開催
- ②歩きたくなるお散歩みなとまちプロジェクト
…みなとまちカフェなどのつながりづくり
- ③歴史・文化を再認識するみなとまち
…みなとまち伝説カルタづくり
- ④写真をとりたくなるみなとまちプロジェクト
…港町の景観改善リノベーション (のれん、照明などへの提案)

港町再生基本構想

歴史と国際色豊かな港町の再生

ビジョン

「世代を超えたふれあいによって 宝をはぐくむみなとまち」

基本方針

ソフト事業

- コミュニティを基軸とした港町利用促進

H30 設立の「みんなのみなとまち研究所 (みなとラボ)」の活動を継続していく中で、港町再生に関するソフト面の取り組みの充実と自立化を目指します。

ハード事業

赤尾木のまちなみを生かした港町の再生

重ねてきた赤尾木の歴史を参考として3つの戦略として整理しました。

「理想のみなとまち」を進めるための3つの戦略

7本の軸

軸別戦略

種子島の海の玄関口である西之表港をメインゲートと位置づけ、港からまちなか、まちなかから歴史的資源へ 7つの軸を設定し、それぞれの特徴を生かした取り組みを進めます。

- ・港からのリーディング軸
- ・赤尾木 (歴史・文化) 軸 (大手筋軸・本城軸・旧上妻家軸)
- ・商店街リーディング軸
- ・ポルトガル交流 (国際) 軸
- ・港町再生中核軸

3つのゾーン

エリア別戦略

7つの軸を面的に捉え、それぞれの特徴を生かしたつながりある包括的な取組を進め、地域全体の魅力向上に努めます。

- ・みなとゾーン
- ・まちなかゾーン
- ・赤尾木 (歴史・文化) ゾーン

3つの拠点

軸とゾーンをつなげ、本市全体への波及効果をも高めるために、魅力ある拠点を配置し、活用を検討します。

- ・古民家
- ・集客交流施設 (榕城分団跡地)
- ・中核施設

